笠間焼くずで舗装

関東道路　廃材を再利用

再利用される笠間焼陶器くず

歩道舗装を敷き均し

関東道路（武藤正浩代表取締役、筑西市下川島）は、国内初となる笠間焼の陶磁器くずを利用した歩道舗装工事を笠間市の笠間工芸の丘で実施した。

同市の伝統工芸品である笠間焼では、年間約4～5t程度の陶磁器くずが発生し、これまで最終処分場へ持ち込んで処理を行っていた。環境都市（ゼロカーボン・プロジェクト）の一環として市が陶磁器くずの活用方法を模索していたところ、同社が歩道舗装への活用を提案。約800kgの陶磁器くずを骨材として使用し、笠間工芸の丘脇の歩道60㎡へ舗装を行った。

陶磁器くずは、笠間焼協同組合から回収して同社リサイクルプラントに持ち込み、破砕して粒度を調整。現場で樹脂等と混合し、敷き均す。今回は、延長37m、1・65mの歩道で、透水性アスファルト5cmの上に、陶磁器くず舗装t2cmを施工した。

今後は、施工結果をもとに強度や耐久性、最適な粒度、配合量などを検証していく。

関東道路の武藤社長は、「ただ埋めるだけではなく、市とともに陶磁器の町の資材として利用、リサイクルを進め、今後、活用を広げていきたい」と語る。

笠間市環境政策課脱炭素推進室の清水和晃係長は、「もともと陶磁器であり色味も良い。地域資源として生かすことで、最終処分場への埋め立て量の削減にもつながれば」と話した。